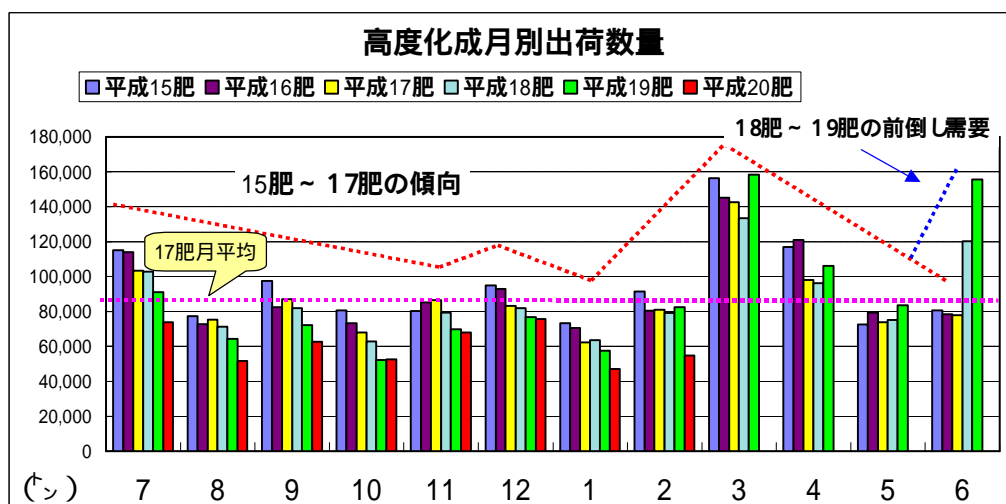


高度化成100万トン割れの危機

日本肥料アンモニア協会の発表によると、高度化成の2月単月の出荷量は昨年同期比66.4%の54,732トンに落ち込んだ。7月～2月の累計においても、前年同期比85.8%の486,365トンと低水準で推移している。平成15肥からの月別出荷数量を比較してみると、その背景が窺える。平成16肥は前年同期比96.3%、平成17肥は94.9%と3～4%の減少で推移したが、平成18、19両肥では前年同期比100.9%、102.1%と数字を

見る限り需要の増加があったかと思われ、一方、月別で見ると、平成15肥から17肥までは、赤い点線が示すように7月から11月までなだらかに減少し12月で少し上がり、1月を底にして2月から3

～4月の春肥に向けてピークを迎えている。ところが、平成18肥と19肥では肥料価格大幅値上げの前倒し需要と思われる大幅出荷増となった。取分け平成19肥の6月単月の出荷量は150千トンを超え、春肥のピークである3月の水準に近づいた。一方、平成20肥は肥料価格の先安見込みで取分け商系における買い控えが目立ち、7月～2月で前年同期比85.8%とその落ち込み幅が大きく、平成17肥を通常年と置き5%の需要減を見込むと平成20肥の高度化成出荷量は100万トンを超えることが懸念される。平成17肥の月平均出荷量は87千トンとなるが、平成20肥は7月～2月全ての月で平均出荷量を割っている。一部の肥料メーカーにおける、早めの生産調整も頷ける。



複合肥料の需要対比 (H1肥/H19肥)

	平成1肥	19肥	19肥/1肥	年平均増減
高度化成(含被覆複合)	1958	1071	54.7%	-2.52%
輸入化成	25	250	1000.0%	+50.00%
普通化成	524	298	56.9%	-2.40%
NK化成	172	48	27.9%	-4.01%
BB肥料(系統)	828	684	82.6%	-0.97%
指定配合	973	988	101.5%	+0.09%
液肥・成形複合肥料	123	79	64.2%	-1.99%
複合肥料合計	4603	3418	74.3%	-1.43%

(単位:千トン)

多様化が進む肥料需要

平成1肥から平成19肥までの期間で見ると、高度化成は2百万トンから略半分の1百万トン、普通化成は50万トン強から30万トン弱まで落ちたが、複合肥料全体で見ると4.6百万トンから3.4百万トンと26%の減少に止まっている。輸入化成は2.5万トンから約10倍の25万トンに伸びたが、指定配合はほぼ百万トン前後で推移しており健闘している。

さて、この背景を耕地面積で見ると、昭和40年に約6百万haあった農地が平成18年には4.7百万haと22%減少している。内訳を見ると、この41年間で普通田は25%減、普通畑が40%減、(次ページへ続く)

